えひめの歴史文化モノ語り

県歴博収蔵資料から ㉑③

宇和島運輸絵葉書（はがき）

海上交通発達 感じ取る

今回紹介する資料は宇和島運輸株式会社が発行した絵はがきである。現在、同社は八幡浜―別府・臼杵間を結んでいるが、戦前は関西や北九州と西南四国を結ぶ多くの航路を有していた。

まず、絵はがきのデザインに注目すると、たわわに実ったミカン、宇和島のシンボルである宇和島城、宇和島運輸の航路図を丸や四角の枠組みで順番に重ねている。城壁の白とミカンのオレンジが海をイメージさせる水色に映え、やわらかいタッチで描かれている。

絵はがきに作成年代の記載はないが、航路図に①大阪細島急行線（大阪―宇和島―細島＝日向市）②大阪四国線（大阪―宇和島―宿毛）③門司宇和島線（下関―別府―宇和島）④大阪日向直行線（大阪―細島）⑤豊予線（宇和島―佐伯―臼杵―八幡浜）を確認できるため、1933（昭和8）年9月頃に発行されたものと思われる。

これ以前の宇和島運輸は大阪細島線と門司宿毛線を二大幹線としていた。前者は大阪商船との共同経営だったが、29年10月から宇和島運輸の単独経営となった。同社は二大航路のダイヤ改正や寄港地の変更を度々行い、利用者の便を図ったが、33年に第2・3高島丸の完成を機に航路の改革を行い、先の五大新航路を開設した。

同年5月6日の地元紙・南予時事新聞は「運輸の大英断」と報じている。宇和島阪神間の上りは10時間短縮、上下とも神戸で国鉄特急「燕（つばめ）」と接続した。上りは12時30分に宇和島を出港、翌日神戸で燕に乗り換え21時30分に東京着。下りは9時に東京を燕で発車、神戸で宇和島運輸に乗り換え翌日18時30分に宇和島着。東京、宇和島に翌日着くことができた。

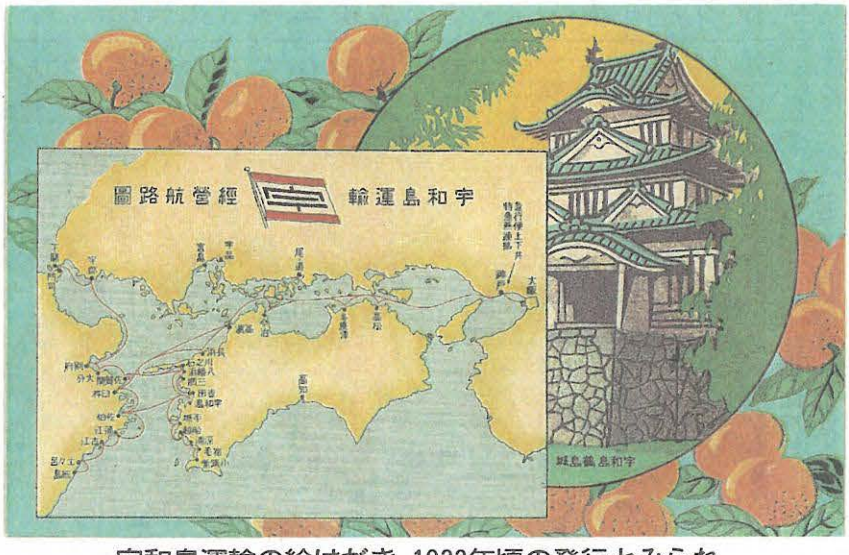
宇和島商工会は9月24日の上り初便について、実際の所要時間を懸賞募集した。1等の景品は宇和島大阪往復券。初便は宇和島を3分遅れで出港したが、その後は順調で定刻より12分早く神戸に着いた。所要時間は21時間45分。後日当選者が発表されている。

当時、松山から少しずつ鉄道が南へ延伸していた。宇和島運輸は将来に備えて航路の改革を行ったのだろう。この絵はがきからは宇和島運輸の意気込みと、南予における海上交通の発達をうかがうことができる。

絵はがきはテーマ展「昭和100年 昭和の風景を振り返る」（7月18日～8月31日）で展示予定。

（専門学芸員・平井誠）

〈随時掲載します〉



宇和島運輸の絵はがき。1933年頃の発行とみられ、当時の航路図のほか宇和島城やミカンが描かれている（県歴史文化博物館蔵）

掲載許可番号：d20230301-04